

山崎のり

911.3
7



叙

寛政癸未の秋を、蘇子と号す杖を以て
人其物之本を人ありて之を風遊の
地を以て子と号す杖を以てのよ山海を
小樽札慢興中其後乃と信く事
駘兵走りて走り出りて二日行日して
望む所乃樽を以て走りて其地
人のいふも及りて一線あり新地

亡ハ小もあつてあつて子法

懐おもしうき冬能あま

村中と秋の菊もとて草を替

学童おく秋松風秋和

鐘の音あまの月のあつて

寺のあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

題目あつてあつてあつて

子拍子あつてあつてあつて

水田あつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

祇園の墓やうき祠ある

米とてやまははるかにを語の先

秋今さらけりるうらや

竹垣も口切あはれなむ

禱りまきまの世の世

我々のふたははれく月のおけ

難物もまきまの世の世

禪寺の納前を感き化菜釜

あてたあけりまきまの世

夢は地均と一本の花の如き

譲らまきまの世の世

以のり小虎にまきまの世

短の軍以も玉子酒あり

松栢も序ふもまきまの世

ほりまきまの世の世

秋もそや月もまきまの世

ゆこともまきまの世

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

浮き小川 越き標のふい

難 黄りりり 雲うりりり

新樽指 濡るる 足履のし

足利きてふ 山いぬ 若の藝

去くく とき 雲の穴より 雲とぬる

雲 雲の 白い 山いぬ 標先

出る 月小 雲中を 見えたり 雲ふ 雲

雲 あり 見えたり 神子の 雲を

何と あり 雲の 淋き 雲の 雲

道 山いぬ 雲の 市の 雲りり

輪 山いぬ 雲の 雲けり 雲 さりり

敷 山いぬ 雲の 雲いぬ 雲の 雲

山 可 際

宮 標 垣 田 線 の 雲 一 雲 の 二 雲

ふ 雲 雲 雲 小 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲

雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲

雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲

一 雲

雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲

山

人 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲

山

山 可 際 山 可 際 山 可 際 山 可 際

一山一の例乃燈一の明

素因ふふり一寺一自然出

有やうきまぬ秋小知

きくくま麻笈の下り明て

明の意一と以ふ乙乃子

帷子の體と女房一うか

紀の教と以つて

一本とも志らぬ

案と志をふ

山

山

山

山

山

山

山

山

部と明り

卯月

町

劫

十六

明

笑

名

山

山

山

山

山

山

山

山

細野上刷毛一枚う元多し

何百と後手免四五天

菓と伊豆小町と歌く

到年よあらはる意の種前

吾明のまら

寺の器木乃牛うら

皆戸川の築く器出

持出を

ちを

り

四五新の家を柳

夏

田

一

春

笑

雪

山 河 山 河 山 河 山 河 山 河 山 河 山 河 山 河

入院振平の席のつらき

村長子つて、
昔よりかた行不しと云ふ

あけぬの響あふりも

梓の音は憐れも

月影子唄く寄りの

まゝま桔梗の中ま

雲出く暮の来るあり

ちと懐くまゝと

除くあり醒しと

何れをそ

三々月の

何れをそ

秋の

秋の

振の

帷子

成山

成山

川

山

川

山

川

山

川

山

川

山

川

山

川

山

川

山

川

山

肩 軀て 棒 あり 思ふ 擗の 考

新 茶 碗 酒を 飲を 更へ 虎

眼く せて 海と 擗の 葉あり

擗も 多し 伊達 なる 人あり

井戸 端の 喧嘩も 只つら 小半時

三 葉の 毒さう 子 穉る 難節

心 やう 深の 危形を 思ふ 月

後り 彼 爲も 最る 事あり

續 け 竹を 出さ の 心 あり

家 内 の 物に 入る 妙 命 爲

新 咲の 花を 飲 遠く 眺り あり

隣 子 育つ こと 初 未 風 吹

相 當ハ 種も あり 中 隔 考

襟 元 好き こと 冬 の 色

仕立 職 店下 研ら せ 智ん あり

吹 さら け 海 とも 考 あり

空い とも 巨 燧を せ 月 の 空

山

成

山

成

山

成

山

成

山

成

山

成

山

成

山

成

山

成

山

花の秋先
 梨子柳山遠入雲の暮きあ隣
 自慢あるをゆやうあ
 花のよしく秋の赤く玉照風信
 木 不る / 瑞子仇口をましく
 野りる水海り何る水の何と
 何ちくくちくくふ切き多程まで
 霞 暮を不るよの月の空
 葉かけのふ / 庭の夕顔
 海 山 海 山 海 山 海 山 海

秋更る海の掃掃ふ能なりと
 ちくく / 雨ふ 雲を借る免
 初梅きりのふの雲を 持あらせ
 雲 暮るハ / ちくく 雲を借る免
 ちくく 秋の 又初をききり 秋ふ初る
 被手伸 / へ 雲 水を汲
 海 雲の 初めをききり 雲もあ
 堰の ころ初もとまきりあ
 海 山 海 山 海 山 海 山 海

鮎の脊の酒を足す一音の月
那山の初古林の意中
社亦遠方ゆゑに信す所遷官
素人同士の母の別念
生のみらせば此の世の心
机心の祖父の影は林に
遠公と名あるの年暮老
病亦ありてたの人の世
至生く如の世に月乃生

山
月
山
月
山
月
山
月
山

系此の極なり西一と却
峯の所也東登天巻の社善人
不形の暮年幸以爲の嶺
遠くは花を足す甲 甲

月
山
月
山

道なきに極子何事本月の所
風ら極るは巻山の世
至在るの世の時た都古里あり

山
枕
山

日初つきよつく入船

雲より赤くみくろふ疾きたのち

丸以陸中ゆくゆくゆく

さんくふゆらくくく煙を嘗てとく

たつ福あきりー海杜氏へ

瑞数ハハハハ冠をくろく

おもしろき世ぬみのきさ

辛抱くゆせらきくく

玉一山産を上大山

来る人の時宜もあく月元元

入江津山くつく初唐

遷宮千出きくと昔のく

くき見をちたる親の仕合

菰美もも輝輝も花のわかけ

雲くくく風情きく

朝風巾清き木の葉の空く

古き紙衣の若くく

雲

山

雲

山

雲

山

雲

山

雲

山

雲

山

雲

山

雲

沙山

石井

赤はけふ大根汁を何つら

月まき過年 くらくを憐し

漸きり 穢子 指分 尋り

率 帳も 簿は けうりの 遊む 影を

春 刈 刈 刈 刈 の 曲さり ぬり 危

まう けたる 意ま 八 阿まぬ 果古 意

下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下

末 末 末 末 末 末 末 末 末 末 末 末 末 末 末 末

真 真 真 真 真 真 真 真 真 真 真 真 真 真 真 真

長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長

る 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠

紅 紅 紅 紅 紅 紅 紅 紅 紅 紅 紅 紅 紅 紅 紅 紅

大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大

花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下

大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大

麻 麻 麻 麻 麻 麻 麻 麻 麻 麻 麻 麻 麻 麻 麻 麻

山 井 山 井 山 井 山 井 山 井 山 井 山 井 山 井

山 井 山 井 山 井 山 井 山 井 山 井 山 井 山 井

菱板 遠く 西の山 やる空

菱山

月代小袋を飾りし 竹やうん

端も 色も 言も 人夢

鳴き 存 遠入と 袋 柳 知らぬ

苔 餅 いたけ 八 庭 ても 是る

點 汲と 花 手 さら 入の 心 何と せ

糸 針の 刀 喉 中 舌 舌

中 小 古 一 里 塚 遠 近 とも あり と

箱 多し いろ いろ あり あり

菱山 菱山 菱山 菱山 菱山

以 前 年 一 月 構 一 社 家 一 冠 本 門

袴 の 裾 を 高く たく たく

長 廊 下 雷 洞 捨 月 影 けり

あ け ぬ き ぬ け ら 秋 の 内 や 花

あ ぬ け の 下 けり 以 つ け の きり けり

隠 居 後 ぬき 佛 せり けり

衆 とも とも とも 花 見 町 の 花

野 山 と 山 とも 多き 花 けり

菱山 菱山 菱山 菱山 菱山

四五新う家そ抱て秋の月

沙山

薄ふもたけし出る春

暮雪

色かつ思わの階子小窓の来て

山

池小ゆけおく白壁の光

雪

雪の義従て園灯寂ふ大庭

山

難うなきるや市のようふ

雪

一徳利 酒杯はぬらぬ様ゆく

山

日記書ゆのう物ちぬあり

雪

振うし 瓶いしさき梯とどろ

雪

幸公も葉の休まぬるはうり

山

ちいさき起る履をきてゆき

雪

横はらとまらくはる月の御

山

ゆふも中く強 無うきら

雪

桐の葉うり来るの葉うとく

山

秋百のやんと雪のうらむ

雪

春もあけ 春のうらむ花の流

山

うらむと神の流き神垣

雪

水不似也教娃子その寸

秋空の蒼くて行ぬ樹との先

透通る水より水上の月

湖空に手憶控廻る玉ありて

工場の付し石のまじり雲

池より葉のうらとをなみ樹の團葉

夕景つらる入梅時の朝

宿心しそ村神をのまつり雲

俄分限の名字むつり

よみ娘もあらずと用さるる此

別深きぬまふらふ言深衣

ちのつりく海を横を安をま

うつりし心をとほす残層

空高く浅黄包あふ月の音

あやむくし一雲よ唄ぬる寸き

花白若も老とあひうりてを思ふ

あはれむくしうらむくしわらわりの

山

山

沙山

棉山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

そと出も果ううまそめ花うう
城もやうくと赤き日や秋

夢や老うの夢うの初とけうう

耳よさらけぬ花のすけ

斗やううかきふ別たう人よけ

若おけやひぬ飛をきん危

ひまのまの中うう月のけいけう

ちまうを次来上こぞの内う秋

山の物よりきとえらう唐四五好

自然ありけいれをを腰張

とく次の外い通きぬ新う出

福玉ひらうふあう子更う起き

赤髪よさうたう柳枝をまめまへ

鬼洞村うらう庭ふ紙取

月の出ぬうらうかきも静あり

芒のけうふあをいけうう結

えんううと年の秋も子静うう

山 光 山 光 山 光 山 光 山 光 山 光 山 光 山 光

光 山 光 山 光 山 光 山 光 山 光 山 光 山 光

釣瓶 何とぞよ 社家の名は

この木うら 勢いよく 水きり花の香

月。長く水とよきに 燈の社いん

巨き御年 中流をく 遊りのま ありと今也

且て人の 遊を人の 遊を人の 遊を人の

流と雪と 水あがり 月八交り

山。松と 竹と 萩と 萩と

欲のぬい 魚をとり 中 栲木うら

乳あらし 小舟と 人 何年か

人 何年か 山 何年か

草や 菊の 花 何年か

月 何年か 一 何年か

小 何年か 何年か

山

光

山

文種

如川

仕山

文記

俣山

菊山

袋山

素五

大

初秋の意をいふより夕明り、
栞る

相知と葉落をみるる、
葉身

波の音はあつたて、
去風

木の音はあつたて、
一風

只心とら、
埴師

そをいふ、
芳洲

少くも、
除柳

故ふ、
小堀

竹藪の日のひらき、
二休

秋の菊され、
槐山

似合、
一宗

空の、
梅史

空の、
洲島

空の、
一二三

空の、
秋名

空の、
瓢水

空の、
紫儿

在ヨタル

一の原

秋の路や木のせりよきの

コイナ

鹿井

日くらしとやぬく秋を

不年

花の香の汐ふのり

コシヨロ

既成

昔季山の松子ぬけ

竹海

末梢のし葉一様

葉丸

秋巻のふかき

渚月

狼の姿ふ

松雪

花の香のし葉一様

葉丸

うらみ木の葉や薄の垣つ

雪の香をぬけうら

以てうらみ

夜もせの昔の

秋の路や

花の香の

有川

以の香を

八千菊田

扇可

枯たきとさけり 柳の若うと成、 去條

河津越や大和巨魁の枯たきなり 平水 星城

空を穿ちやぬき口のさけ 枯子先、 志城

空を穿ちの在りしつら 枯子先、 所

紫の戸や先妻不ものさけ ヤナ川 兼史

備ふとくく者あ又あり花を略す

森もえんき田の野のさけ 本京 桂花

志のさけや兄達の 神や又 モリヲカ 一 叟

海山を、越して 涼しや モリヲカ 一 誠

さうあらし アヲモリ 者川

新屋をさけ ヨイナ 志井

河津の若葉を ヨイナ 燕花

おくら ヨイナ 雪

うけ ヨイナ 不年

雨乃何と云々 有るあり 乃の如く
ヨク
冬友

月を遊るる 秋ハ初より 暮ふりり、
脱氷

初冬の、物も 出さす 冬も如
一 呆

昔の冬の法を 都下 笠乃下、
二 休

冬の花も 斗りの 小春の如、
共 几

冬の花も ぬおの くらや 秋の暮
松雲

又とあふ 七の 終へて 冬う那、
松香

晴のま 何とや 春を 思はるく、
竹 海

月を 入る 淋し 暮るぬ 秋の暮、
既 成

初秋ハ 又送る 雪乃 初方う如、
三 省

名月や 自出 何せん 法 志の如、
冬 香

時や色ハ 出さ 又送るぬ 月の如、
翠 古

見おろさ 月山の 物と 出さす、
長 九

夕の月又 あふ 暮るぬ 名 終の如、
林 一

三月の月ハ 丸く 暮るぬ 冬 終の如、
菊 月

春は 川の 釣の 足 暮 又ゆる 暮る、
松 村

冬く 暮るの 暮ふ 又ゆる 暮る、
玉 先

在 廿六日

廿六日

三

汗の^十中^{カニ}に^二成^レる^一の^心 寿 延
 新^レ小^レの^心 生 意
 意^の心^の中^にと^レ成^レる^一 宗 茶
 新^レ小^レの^心 南 歌
 新^レ小^レの^心 山 高
 新^レ小^レの^心 空 紫
 新^レ小^レの^心 湖 水
 新^レ小^レの^心 丸 助 坊
 新^レ小^レの^心 林 兼

新^レ小^レの^心 長 坡
 新^レ小^レの^心 徇 光 為
 新^レ小^レの^心 空 狂
 新^レ小^レの^心 去 如
 新^レ小^レの^心 管 笠
 新^レ小^レの^心 完 明
 新^レ小^レの^心 大 号
 新^レ小^レの^心 柱 九



うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とぎれ

うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

等我

追加

うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

二所

うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

春所

うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花所

うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

不名

旅立折々

うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

沙山

